



安城市議会議員 石川つばさ通信 号外

市政レポート

児童数急増の場合は 「学習補助員を配置」

マンションの建設などによって、年度途中で小中学校の児童・生徒数が急増した場合の対応について、6月議会の本会議で質疑を交わしました。

質疑の中で市は、過去の実績として安城中部小学校区の「ゼルクシティ安城」の例を挙げました。同マンションは2期に分けて建設され、1期が138戸、2期が137戸という規模でした。1期完成翌年の中部小児童数は25人増、2期完成翌年は同じく19人増とのことでした。いずれも一学年、一学級あたりに換算すると学校運営に重大な影響をもたらす人数ではありませんでした。

マンションは価格や間取りなどの条件によって購入層が大きく左右されます。ゼルクシティ安城の場合、概算で小学生のいる世帯が約6世帯に1世帯だったことを見れば、小学生のお子さんを持つ年代が主たる購入層ではなかったという事が言えます。

しかし、先述の様に条件次第で購入層は大きく変わります。もし小中学生の子どもがいる年代が購入層の中心となれば、一斉に多くの転校生がやって来ることも考えられます。そうなれば学校運営に与える影響は大きく、元々の学校規模が比較的小さければ尚更その影響は多大となります。

市は将来的にそうした事態が生じた場合の人的対応として、「スクールアシスタント事業による学習補助員を配置することが考えられる。学級を分けることはできないが、この配置により、子どもたちの学習を支援する体制づくりができる。」と認識を示しました。

石川翼事務所 446-0072 安城市住吉町荒曾根 1-245 アワーズビル 2F 南
電話 0566-98-6932 メール ishikawa2011@aria.ocn.ne.jp

編集：石川つばさを支援する会